

令和2年5月8日

大切なものは眼には見えない

学校は休校、家でも外出自粛。友達に会いたいのには会えない。このように、皆さんは今、これまで経験したことのない大変窮屈な生活を強いられている。持て余す時間。運動不足。やり場のない不満とストレス。自分の身体と心のコントロールに苦慮している人もきっといるだろう。

ところで、このように人との接触が長期間にわたって制限される生活の中で、改めて気づいたことはないだろうか。昼間は見えない星が夜になれば見えるように、人との接触が制限されて初めて見えてきたこと、分かったことはないだろうか。

今年の3月に没後90年を迎えた、皆さんも知っている童謡詩人の金子みすゞは、こんな詩を残している。「青いお空の底ふかく／海の小石のそのように／夜がくるまで沈んでる／昼のお星は眼にみえぬ／見えぬけれどもあるんだよ／見えぬものでもあるんだよ」（『星とたんぽぽ』『金子みすゞ童謡全集』JULA 出版局）

皆さんにも、「見えないもの」を見ようとした金子みすゞと同じような眼差しで、今の自分の生活や社会の状況を見つめてほしい。そうすれば、「生きていくうえで本当に大切なこと」が見えてくるはずだ。大切に思う人たちに会いたくても会えずにいるからこそ、何が大切かが見えてくるはずだ。感染への不安と闘いながら命がけで感染者の命を守る医療従事者を突き動かしているものは一体何なのか、それが見えてくるはずだ。そして、感謝の心を持つようになった自分に気づくはずだ。コロナ禍の中で、「本当に大切なことは眼には見えない。しかし、見えないからといって無いのではない。それを見ようとすれば必ず見えてくる。」そんな「心の眼」を失わなければ、コロナ終息後も、必ずより良い社会をつくっていけるはずだ。そう信じている。

頑張れ徳風生！



校長 東則尚